

ひぎまいの和

6月号



令和 8年 5月 29日
横浜市立ひざり舞岡小学校
〒233-0015
港南区日限山二丁目 16番1
TEL 045(841)6561

自分らしい花を咲かせて

副校長 村田 健司

「今日の天気は大丈夫かな。」子どもたちも教職員も天候の心配が尽きず、悲観的に捉えがちな6月。登下校、中休みの校庭遊び、宿泊体験学習、水泳学習と天候に左右されることが多い一方、雨によって読書や室内での時間を楽しんだり、静かに心を落ち着けたりする機会にもなります。見方を変えると、同じ日常でも別の色を帯びる気がします。毎朝、見慣れた職員玄関前の「紫陽花」の青葉が雨に濡れて深まり、ほころびを待つ姿に、梅雨の気配が漂います。

新学期が始まって約2か月、学級や学年の色が少しずつ息づき始めてきました。先日、給食の時間に牛乳が不足していた学級に届けると、後日「この前は牛乳を届けてくれてありがとう。」と言われました。また、中休みに3年生の教室で描いていた絵の感想を伝えると、翌日「この前は絵のことを褒めてくれてありがとう。」と言われ心が弾みました。普段、職員室で仕事をしていることが多いため、席を外す際は、子どもたちとの出会いを求めて、ついつい遠回りをして職員室に戻ることが日課となっています。同時に、慣れが生まれるこの時期だからこそ、戸惑いや不安を抱く子どもたちの小さなサインにも気付き、安心して過ごせる学校づくりに努めてまいります。

やり遂げようとする使命感・相手を思いやる共感

5月大型連休明け、野菜の苗をプランターに植えた2年生。翌朝、正門をくぐり真っ先に向かう姿を追いかけると、前日に植えた苗に水をあげていました。さらに、土日を挟んだ翌日も同じ光景が目にとまったので、声をかけると「休みの日に雨が降らなかったから、(苗に)水がなくてかわいそう。」と話し終えると、足早に昇降口へ向かって行きました。

自分なりに意味がある納得感

ある日の中休みの廊下。早歩きで思い思いの場所へ移動する子どもたち。そのような中、6年生の教室を訪れると、複数名が休み時間前の授業で使ったワークシートの枠いっぱい自身を考えを書き込んでいました。10分ほど経つと、そっと自分の机にしまいました。よく見ると、ワークシートに書いた鉛筆の粉が手に付き、少し黒くなっていました。

子どもたちの主体・本気を支えているのは、左下のような思いから、実際に行動して右下のような思いが芽生える過程の営みではないでしょうか。例えば、はじめはちょっとした好奇心でも、一生懸命取り組むことで手応えを感じたり、時には悔しいといった感情にも出会ったりしながら主体や本気が醸成されていくのだと思います。とはいえ、「主体・本気」という言葉は力強い意味をもつ一方で、どこか重たく感じたり、常に完璧で全力を出し切ることだと受け止められたりして、失敗や迷いが許されないもののように感じてしまうかもしれません。子どもたちの主体や本気は周囲が求めて生まれるものではなく、自分が納得し、真剣に向き合おうとする中で自然発生していくもの。だからこそ、学校教育において子どもたちの主体・本気を引き出す場面を一つでも、二つでも多く創っていきたく考えています。土の性質によって花の色が変わる紫陽花は、根を張る土の中での環境が開花に大きな影響を与えます。子どもたちもまた、6月の雨も味方につけながら、様々な思いを膨らませ、自分らしい色を咲かせてほしいと心から願っています。



(例) 子どもたちの本気・主体のきっかけとなる思い



(例) 子どもたちの本気・主体から得られる思い

すべては子どもたちのために ~ 一人ひとりの思いや願いが膨らむ環境創りに取り組みます ~